和歌

内容理解

◇万葉集

次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「あかねさす」（二五八・3）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 枕詞である「あかねさす」の導き出す語句を歌中から抜き出しなさい。

(2) 「君が袖振る」とあるが、「袖振る」とは、どのような意味を表す行為か。次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア　敬意を表す行為　　イ　反意を表す行為

ウ　悲哀を表す行為　　エ　愛情を表す行為

2 「紫の」（二五八・5）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「妹」とは、具体的に誰のことか答えなさい。

(2) 「紫のにほへる」とは、誰の、どのような様子か答えなさい。

3 「東の」（二五八・7）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「かへり見すれば」を(a)現代語訳しなさい。また、(b)どの方角からどの方角へ視点を移動させているか答えなさい。

(a)

(b)　から　の方向

(2) 「月傾きぬ」の「月」とは、何と呼ばれる月か名称を答えなさい。

4 「天地の」（二五九・2〜5）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「日」「月」「雲」「雪」が「渡る日の……降りける」と詠まれているのは何を表しているか。次の文の空欄にあてはまる語句を、後ろの語群からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

富士山は、A　　かつ崇高であり、B　　も雲も雪もこの山に屈服しC　　している。

ア　日月　　イ　天空　　ウ　畏敬　　エ　神聖　　オ　永遠

(2) 「高嶺は」は、どこへ続くか答えなさい。

5 「田子の浦ゆ」（二五九・7）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「ま白にぞ」に込められた気持ちを説明した次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

突然視界が開けて、［A　　］をいただく［B　　］を仰ぎ見たときの［C　　］を率直に詠んでいる。

(2)「天地の」という(a)長歌とこの(b)反歌は内容面でどのように違うか答えなさい。

(a)

(b)

6「憶良らは」（二五九・9）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1)「母」とは、作者とどのような関係の人か答えなさい。

(2)「子泣くらむ」「我を待つらむ」の二つの「らむ」は推量の意であるが、なぜ推量の「らむ」が用いられているか答えなさい。

7「多摩川に」（二五九・11）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1)「多摩川にさらす手作り」は、第三句の「さらさらに」を導き出す修辞法である。この修辞法の名称を次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　枕詞　イ　序詞　ウ　掛詞　エ　縁語

(2)「さらさらに」を説明した次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

［A　　］を重ねて、意を強めた語で、「逢えば逢うほど」という意味になる。洗って日に干す意の［B　　］の「さら」と同音であり、繰り返しによるリズムを生み出している。

8「うらうらに」（二六〇・2）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1)「ひばり上がり」の句の効果(働き)を説明した次の図の空欄にあてはまる語句を、後ろの語群からそれぞれ**一つ**選んで記号で答えなさい。

上二句＝うららかで［A　　］春の情景
↓
転換
↓
［B　　］に感じさせない。
字余りの落ち着いた語調で
↓
下二句＝悲しみに沈んだ［C　　］な心境

ア　不自然　イ　暗い　ウ　明るい　エ　孤独　オ　楽しい

(2) この歌に詠まれている「情景」と「心情」はどのような関係にあるか。

［　　］な関係

9 「父母が」（二六〇・四）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) この歌における作者の気持ちを、「望郷」という言葉を用いて**二十五字以内**で説明しなさい。

(2) この歌は、どのような折に詠まれたものと考えられるか。

❖古今和歌集

1 「袖ひちて」（二六〇・7）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) この歌に表現されている季節をそれぞれ答えなさい。

袖ひちてむすびし水…［　　］　水の凍れる…［　　］　春立つ…［　　］

(2) 「風やとくらむ」の現代語訳として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　風が早く吹いたのだろうか。　イ　風が解かしているだろうか。
ウ　風がささやいたのだろうか。　エ　風が吹いているだろうか。

［　　］

2 「ひさかたの」の歌（二六〇・9）には、対照的な二つのことが、一つの季節を織り成して過ぎていく「自然への感動」として詠まれている。次の中から対照的な二つのこととして適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア　落花を誘う春風　イ　陽射しがのどかに降り注ぐ春の日
ウ　散り急ぐ桜の花　エ　日数と共に衰える花の命

［　　］［　　］

3 「五月待つ」（二六一・2）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「昔の人」とは、どのような人か。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　古代人　イ　故人
ウ　昔の知人　エ　昔の恋人

［　　］

(2) 「袖の香ぞする」とあるが、なぜ「昔の人」の「袖の香」がするのか、理由を説明しなさい。

4 「秋来ぬと」（二六一・5）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) (a)「秋来ぬと」の「ぬ」と(b)「見えねども」の「ね」を文法的に説明しなさい。

(a)［　　］

(b)［　　］

(2)「おどろかれぬる」を、(a)横線を引いて単語に区切り、(b)現代語訳しなさい。

(a) おどろかれぬる

(b)

5「ちはやぶる」（二六一・7）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 枕詞である「ちはやぶる」が導き出す語句を歌中から抜き出しなさい。

(2)「から紅に水くくる」とは、どのような様子かを説明した次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

竜田川が降り敷く［A］によって、［B］染まっているかのように見える様子。

6「山里は」（二六一・9）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 何句切れの歌か答えなさい。

［　　］句切れ

(2)「人目も草もかれぬ」の「かれ」は掛詞になっているが、何と何が掛けられているか答えなさい。

［　　］・［　　］

(3) 次の文は、この歌に込められた作者の心情を説明したものである。空欄にあてはまる語句を、後ろの語群からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

［A］はいつの季節でも寂しいものだが、とりわけ、［B］はなおさらである。人の訪れもなくなり、草木も枯れてしまい、その［C］が格別に感じられる。

ア 秋　イ 冬　ウ 山里　エ 人里
オ 寂しさ　カ 厳しさ

7「思ひつつ」（二六一・11）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1)「思ひつつ」とは、誰が何を思うのか。次の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

［A］が［B］を思う。

(2)「覚めざらましを」を現代語訳しなさい。

(3) この歌に込められた作者の心情を説明しなさい。

8 「天つ風」の歌（二六二・2）の「とどめむ」とは、①何のために、②どこにとどめたいというのか答えなさい。

①

②

◇後拾遺和歌集

1 「もの思へば」の歌（二六二・7〜8）について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 作者は「沢の蛍」を何のようだと感じているか、歌中の語句を抜き出しなさい。

(2) (1)で抜き出した部分を現代語訳しなさい。

◇新古今和歌集

1 「見渡せば」（二六二・12）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「夕べは秋」の意味として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　夕暮れになると秋の情景を思い出すということ。
イ　夕暮れになると秋の情景のようになるということ。
ウ　夕暮れの情景が最も趣深いのは秋だということ。
エ　夕暮れの情景は秋が最も寂しいということ。

(2) この歌に詠まれているのはどのような情景か説明しなさい。

2 「薄く濃き」（二六三・4）の歌について、「跡まで見ゆる」とあるが、何の跡が何によって分かるのか説明しなさい。

3 「誰かまた」（二六三・4）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 本歌を次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　五月待つ花橘の香をかげば昔の人の袖の香ぞする
イ　五月来ば鳴きもふりなむほととぎすまだしきほどの声を聞かばや
ウ　ほととぎす鳴くや五月のあやめ草あやめもしらぬ恋もするかな
エ　うちしめりあやめぞかをるほととぎす鳴くや五月の雨の夕暮れ

(2) 「誰かまた花橘に思ひ出でむ」に込められた作者の心情として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　誰が花橘を思い出すのか、誰も思い出しはしない。
イ　誰がまた花橘を見て私を思い出すのだろうか。
ウ　誰か花橘の香りをかいで昔を思い出してほしい。
エ　誰も花橘の香りをかいで昔を思い出したりしない。

4 「見渡せば」（二六三・6）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「花」と「紅葉」はそれぞれ何を象徴しているか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 「花」は美しさ、「紅葉」は栄華の象徴。
イ 「花」も「紅葉」もはかなさの象徴。
ウ 「花」ははかなさ、「紅葉」は寂しさの象徴。
エ 「花」も「紅葉」も美しさの象徴。

(2) 「花」「紅葉」と、対照的に詠まれているものを歌の中から抜き出しなさい。

5 「志賀の浦や」（二六三・8）の歌は、「さ夜ふくるままにみぎはや凍るらむ遠ざかりゆく志賀の浦波」を本歌としている。このことについて説明した次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

冬の夜の湖面が［A］から凍っていき［B］の音が遠ざかっていくという聴覚で捉えた本歌に［C］を加え、月が湖面の［D］から出るのを［E］でも捉えている。

6 「玉の緒よ」（二六四・2）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 「玉の緒」とは何か答えなさい。

(2) 「忍ぶることの弱りもぞする」を「もぞ」に注意して現代語訳しなさい。

7 「風になびく」（二六四・4）の歌について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) この歌に用いられている修辞法を説明しなさい。

(2) 「ゆくへ」とは、何の「ゆくへ」か**二つ**答えなさい。

・